

●満開の菜の花畑のスケールは、まさに圧巻の一言。「観光資源としての景観づくりと、農業としての経済性や効率性を両立するには幅みもありますが、工夫しながらこの景色をできるだけ維持していきたい」と江崎さんは言います。



●黒千石大豆の作付面積は2haほど。収穫時期が11月と遅く、収穫時の苦勞も多いそうですが、大切な輪作作物の一つになっています。

# 明日を語ろう！ 北の農業人

KITANO NOUGYOUNBITO



北海道農業に限りない愛情を注ぎ、  
たゆまぬ努力を続ける人々がいます。  
農業の未来を創造する「北の農業人」の  
情熱や取り組みをご紹介します。

## 地域の優良品種を守りながら安定した農業経営をめざす 父親の代で始めた菜種の生産が 地域の重要な観光資源に。 新たな品種栽培にも挑戦し、 農業経営の自立を図る。



●滝川ナタネ生産組合の会長を務める江崎さんは、江部乙に入植した農家の4代目。「もともと家業を継ぐ気はなかった」と笑いますが、今では、農業のやりがいや面白みもわかってきたそうです。

### 日本一の作付面積を誇る 菜種生産地としての取り組み

緩やかな丘陵が続く滝川市江部乙地区では、5月中旬になると黄色いじゅうたんを敷き詰めたような菜の花畑があららこちらに現れます。花の見頃に合わせて開催される「たきかわ菜の花まつり」は、道内外から数多くの観光客が訪れる名物イベントになっています。

滝川市は、2016年度の作付面積が日本一になるなど、国内屈指の菜種生産地。しかしその歴史は意外に浅く、本格的な栽培が始まったのは20年ほど前のこと。エルシン酸を含まない「キサキノナタネ」が開発され、北海道の優良品種になったことが契機でした。現在、滝川ナタネ生産組合の

会長を務める江崎正典さんは「菜種の栽培は、父が仲間の農家さんに誘われて、2軒で始めたものでした。あまり手間が掛からず、広い面積でも効率的に生産できるのが魅力でした」と振り返ります。

初めて手掛ける作物は、たいてい2、3年の試行錯誤期間があるものですが「気が合ったのか、たまたま1年目からうまくいった」と江崎さん。その成功をきっかけに、菜種生産は一気に広がっていきました。

やがて、この美しい花畑を観光資源に、とナタネ生産組合などが中心になって市に働きかけ、2000年に菜の花まつりの原型となる「菜の花フェスタ」を開催。今でも江崎さんをはじめとする組合員たちはPR活動も兼ねて餅つきなどを行い、イベントに協力しています。

### 国産菜種へのニーズが拡大 今後は安定供給が課題に

菜種は経済性が高く、輪作時に障害が出にくいことなどから、小麦や大豆などと並ぶ輪作作物として定着していきました。国の補助金制度などの追い風もあり、一時は市全体の作付面積が200ヘクタールを超えるまでに拡大。収量や品質も高く、国産菜種ブランドとしての地位も確立されました。しかし、近年は苦勞も多いと江崎さんは言います。

「作り続けていくとどうしても病害虫が発生することがあり、以前よりは収量が減っています。また、ここ数年は夏から秋口にかけて大雨が多く、収穫や種まきのタイミングを見極めるのが難しいのも悩みの一

つになっています」

江崎さんは、春まき小麦を導入したり、黒千石大豆や雑穀なども栽培しながら、畑をなるべく多くの作物で回すように工夫しています。また、菜種は収穫間近に雨が多くと発芽してしまうため、夏は天気予報とにらめっこをしながら、秋まき小麦の収穫時期と調整を図る毎日だとか。そうしたノウハウを積み重ねることで、最近はずがつかめてきたと話します。

「大切なのは収量を確保すること。菜種のニーズは多いのですが、生産が間に合っていないのが現状です。今は安定供給が最大のテーマだと考えています」

### 自立した農業をめざし 変化の時代を乗り越える

5月下旬に訪ねた江崎さんの畑は、黒千石大豆の播種の真っ最中でした。その後、タカキビやイナキビといった雑穀の播種が続いていきます。

江崎さんがこうした多品種の栽培を手掛けるには、連作対策のほかにも理由があります。それは「自立した農業経営」に向けた布石。例えば、黒千石大豆は北竜町の黒千石事業協同組合の理事長と知り合っていたことから作り始めたそうですが、生産から販路開拓までを自分たちで手掛ける取り組みなど、学ぶところが多いといえます。また、雑穀も近年のブームで人気が高まっており、引き合いが増えているのだそうです。

人気や将来性の高い品種を取り入れることで、江崎さんは国の支援政策だけに頼



●見晴らしの良い丘陵地に広がる小麦畑。江崎さんは60haの農地のうち、約半分を小麦の生産にあてています。



●「キサキノナタネ」から搾った純国産の菜種油は、健康志向の高まりなどもありニーズが増えています。

